

昭和59・60年度の総括報告

ウシエビ養殖技術開発研究

I 養殖技術に関する試験

1 塩分濃度試験

生長段階により4期（第1期：0.017～0.5g、第2期：1～5g、第3期：6～13gそして第4期：15～20g）に分け、淡水区から海水区（約35‰）まで5‰毎に計8区を設けて各期における生長及び歩留りを比較した。実験は昭和59年5月28日から11月7日までの間に行った。

増重倍率で表した生長を図3に、歩留りを図4に示した。全体的にみると塩分濃度と生長及び歩留りとの間に明瞭な関連はみられず、ウシエビはかなりの広塩分耐性を示すことがわかった。しかし、5‰区では生長に伴って生長率が鈍り、一方30‰区と海水区では逆に生長に伴って生長率の上昇がみられた。これらのことから、養殖に当っては種苗サイズ（1g以下）では5～25‰が良く、10g以上では10～30‰が良いと思われる。

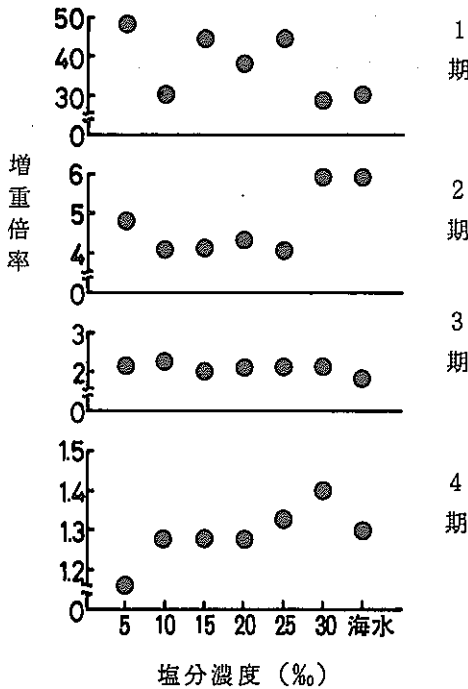


図3 各塩分濃度における生長

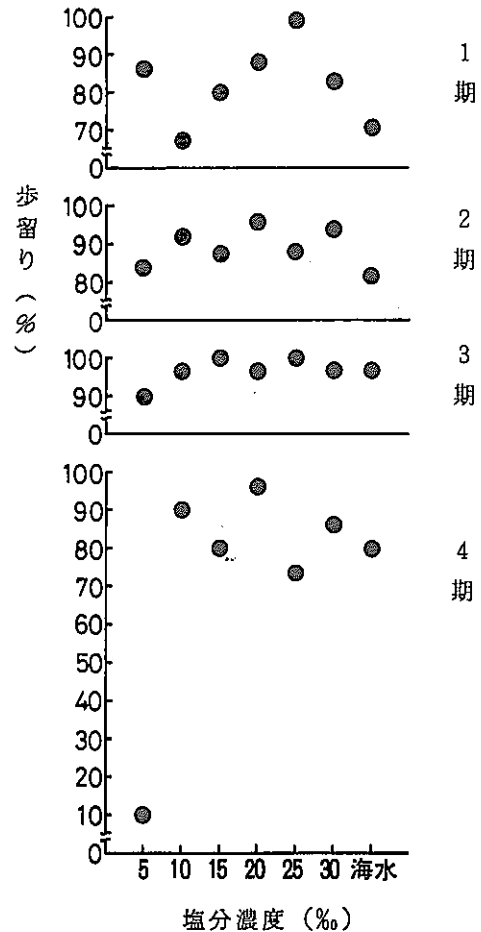


図4 各塩分濃度における歩留り